

湘南地域の観光資源の発掘等に係る大学連携事業
「新たなモデルプラン」発表会

プロジェクトマッピング × 大山

OYAMAN

テーマを選んだ理由

- 現在の大山は訪問客の大半が登山客
- その大部分が高齢者である
- 若者、ファミリー層などの訪問者は限られている
- 幅広い世代、地域に大山の魅力を伝えるために新たなイベントの作成が必要



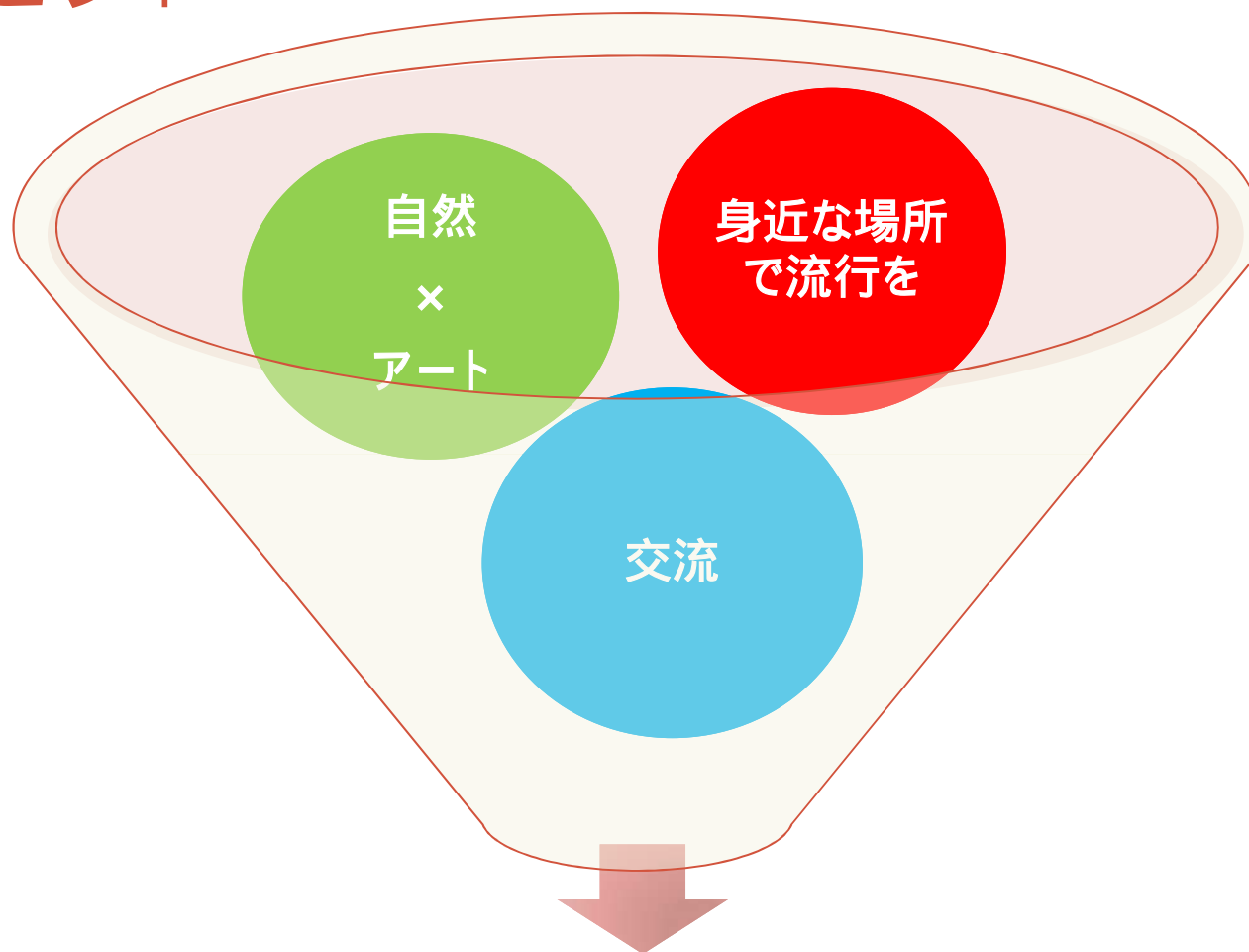
- プロジェクションマッピングを用いた新たなイベントを開催することで、登山以外の目的を持つ新規のお客さんを呼び込むことができる

プロジェクションマッピングとは？

プロジェクションマッピングとは、実物<リアル>と映像<バーチャル>をシンクロさせる映像手法で、その両者の融合が生み出す魅力的な世界観はいま世界中で注目を集めています。映像やコンピュータグラフィック等をスクリーンのような平面に単純投映するのではなく、建築や家具などの立体物、または凹凸のある面にプロジェクター等で投映します。その際、映像等の素材にはスクリーンとなる対象と同じ立体情報や表面情報を持たせ、投射の際にぴたりと重なり合うようにします。対象が持つデザインや・凹凸といった情報を利用しながら、映像による光や陰影を与えることで、対象が持つ表面情報がある時はより立体的に、そしてあるときは全く別の表情を浮かび上がらせ、更には動かないはずのモノが本当に動いているかの様なリアルな立体感、空間感を表現することができるのです。または自ら光を放つ様に感じさせる幻想的で、錯視的な映像表現でもあります。



コンセプト



大山 × プロジェクションマッピング

ターゲット

1

• 近隣地域の住民

2

• 若者、家族連れ

3

• 企業、訪日外客

具体的なイベント内容

- ・ 時期・・・秋、冬の夜
- ・ 場所・・・滝、階段、お寺、木、ケーブルカーの中
- ・ 主催団体・・・映像系の大学・専門学校等
大山観光協会

- ・ 実施内容・・・大山でのプロジェクションマッピング
→コンテスト形式にし、学生の参加を求める
投票形式で審査を行い、観光客の参加を促す

課題

・費用面

プロジェクションマッピングを行う各団体が持参する。

・場所

大きいものをやるのではなく、小さいものをところどころでたくさんやることで解決する。

・住民の協力

多くの観光客の来訪により、バスの混雑や騒音等が見込まれるが、周辺住民にあらかじめ許可を取っておくことで解決する。

・大山らしさが薄くなるのではないか

プロジェクションマッピングの内容を大山の歴史や自然になぞらえることで解決する。

イベントの告知方法



期待される効果

- 登山目的以外でも気軽に行けるようになる
- 大山周辺のお店の収益に繋がる
- 市内、その近隣の観光客増加
- プロジェクションマッピングを通して大山の認知度アップ
- 学生達のプロジェクションマッピングの質が向上していくと、コンテンツ系の企業などから注目される

(学生の表現の場となり、また企業へのアプローチにもなる。さらに企業がスポンサーになる可能性も考えられる。)



ご清聴ありがとうございました